

マンスリー

サンズ・トーク(52)

2013.3.1

木村 讚

先月、身内の慶事があって京都へ行き、3家族、6名で八瀬に1泊しました。翌日は、私のみ叡山電鉄で出町柳へ出て、その西側の今出川方面の同志社や、東側の百万遍の京大を見て歩きました。

リゾートトラストの八瀬離宮

叡山電鉄の終点が八瀬比叡山口駅。そこに重厚なリゾートホテル、エクシブ京都八瀬離宮がある。



夕食は、写真右1階にあるイタリアン。朝食は、この前の橋を渡って庭園を逍遥しつつ日本料理、華曆にまかり越します。モダンな造りのお食事どころ。素材が吟味され、繊細なお料理。鞍馬の奥の美山の名水が添えられ、寝起きの舌がしゃんとしました。

数年前、私はこのホテルのオープニングに出席したが、世界のトランペッター、日野皓正が吹奏する祝典曲がファンファーレのように周りの山々こだましたのが印象的だったのを思い出しました。

同志社の創始者、新島襄先生の旧宅

同志社大学の創始者、新島襄とその妻が居住した家が京都御所の付近に残されていた。ベランダ付の和洋折衷の住居で、NHKのドラマ、八重の桜で話題になり、見学が予約制になっている。彼は、徒手空拳、函館から日本を脱出し、アメリカで高等教育を受け、帰国後、明治8年、京都に同志社英学校を設立した。翌年、会津出身の女傑、山本八重と結婚し、明治11年、この邸宅を建てて住まいした。



襄は、明治23年、46才で早世したが、新島八重は、その後も同志社に関り、日清日露の戦役では、広島等で戦傷者の看護に奔走するなど、社会貢献に努め、昭和7年、88才の長寿を全うされた。

吉田山の京都大学

京大は、東大とともにわが国の教育、研究の最高峰である。京大教授、湯川秀樹は、戦後の昭和24年、中間子理論により、日本人初めてのノーベル物理学賞を受賞、敗戦に打ちひしがれた日本を大いに力づけた。また、昭和40年にノーベル物理学賞を受賞した朝永振一郎も、湯川とは京都大学の同期なのだ。昨年、京大の山中伸弥氏が、IPS細胞研究でノーベル医学生理学賞を受賞した。これは、人の細胞や臓器が再生できる可能性を立証した研究で、この年のノーベル賞の中で最も注目を集めたものであった。吉田山の一角に京大医学部と、京大病院を見て、その鴨川寄りにIPS細胞研究所を見つけた。今回、同志社と京大は、わが国の英知のとりでとして、是非見て歩きたかったのです。

